

京都府の高校野球における競技レベル向上に関する研究 －指導者に着目して－

芳賀 博之 (競技スポーツ学科 コーチングコース)
指導教員 植田 実

キーワード：指導者 甲子園 指導環境

1. 緒言

高校野球と言えば甲子園, 高校球児なら誰しもが甲子園に憧れ, 目指す場所である。人々に愛される高校野球は日本の文化と言っても過言ではないだろう。その高校野球において, 近年では京都府の代表校が全国の舞台で勝てなくなってきた。1997年・1998年大会で連続して準優勝しまた, 2005年大会でも準優勝と結果を残してきた。しかし2012年大会で勝利を挙げたのが5年ぶりのことであり, 勝ち星から遠ざかっている。その背景には様々な要因が考えられるが, 指導者が及ぼす影響力が大きい。指導者の交代により競技成績が低下している高校もあれば, 近畿大会を制するまで力を付けている高校もある。

本研究は京都府の指導者, 選手にアンケート調査を行い, 現状を把握することで, 今後の課題を見つけ, 低迷が続く京都府の競技レベル向上につなげることを目的とする。

2. 研究方法

- (1) アンケート調査
 - (2) 文献調査
 - (3) 対象者 京都府の高校野球監督 16名
及び選手 515名
 - ・アンケート項目は以下の5つの観点から構成している。
- ① 経歴②指導方針③技術面
 - ④戦術面⑤環境面

3. 結果と考察

戦術や野球に対する考え方などにおいては, 大きな差は見られなかった。練習環境においても, 他の部活動との併用が多く, ほとんどの高校が同じ環境の中で練習をしている。著者が着目した点は部活参加状況であり, 京都府の現状では, 指導したくても学校業務があり満足に練習に参加出来ていない指導者がいる。16校中6校が満足に参加出来ていないと回答し, その高校の競技成績は良いとは言えない。成績を残している高校は, 学校の協力もあり満足に参加出来ていることから, 指導者の部活参加時間の多さは競技成績と大きく関係している。

4. まとめ

現状では指導者が満足に指導出来る環境が整っていない。高校スポーツにおいて, 指導者が及ぼす影響力は大きく, 指導者が実際にグラウンドに足を運び, 選手と向き合う時間の多さが競技力向上につながる。

【引用・参考文献】

- ・一般財団法人京都府高等学校野球連盟
<http://www.kyoto-koyaren/>
(2012/12/18)
- ・田尻賢誉 (2012) 高校野球弱者の教訓
株式会社日刊スポーツ出版社
P141-160 P205-242